



教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく
令和6年12月2日

さわやか相談室 TEL 048-865-7573

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 TEL 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

「個性を磨くキリギリス」

校長 高山 俊介

「秋の日はつるべ落とし」から、瞬く間に師走を迎え、本格的な冬に向けて支度を始める季節となりました。COVID-19が感染症法上5類に移行してから、2度目の冬です。様々な感染症が心配されておりますので、地域・保護者の皆様、どうかご自愛ください。

さて、今年度本校では教育活動の重点・努力点の一つを「3年間を見通し、キャリア教育を実践すること」とし、第1学年では、キツザニアの中学生プログラムで学び、第2学年では、さいたま市中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」により、地域の多くに事業所の皆様にご協力いただき、職場体験に取り組み、第3学年の様々な進路選択に関する体験学習や教育活動の実践につなげるようにしています。これは、入学・就職試験に合格させるための支援や指導に終始する、いわゆる「出口指導」の傾向に大きく傾くことなく、卒業時の進路をどう選択するかを含めて、どのような人になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った「生き方の指導」を実践するためです。

生徒の皆さんは、将来的に社会から「働く」ことを期待されています。「働く」とは、「傍（はた）を楽（らく）にする」という意味だと言われているそうです。（諸説あります）そば（傍）にいる人や第三者を、快く安らか（楽）にすることや豊かな生計にすることという意味になるのでしょうか。皆さんの来る



その時には、自分の個性や得意なこと、好きなことを仕事にして働くことができるようになると望ましいと思っています。そこで、タイトルにある話を、漫画家であり、さいたま市観光大使なども務められている「あらい太朗先生」から聞いたことがあるので紹介します。

あらい太朗先生は、ご自身の中学生時代の学校生活では、人の似顔絵ばかり書いていたことなどを自己開示するとともに、イソップ童話の「アリとキリギリス」を先生ならではの解釈を加えて話してくれました。それは、「もしキリギリスが、冬の備えのために一生懸命働く夏の間、のん気にヴァイオリンを弾いているのではなく、一生懸命ヴァイオリンを弾いていたら、冬にアリたちのもとを訪ねた時にただ追い返されるのではなく、素晴らしい演奏を披露して代価として食物をもらえていただろう。また、今後キリギリスはアリたちののん気にヴァイオリンを弾いているだけの怠け者と思われず、アーティストとして尊敬されるであろう。」という内容です。

さらに、「仕事には、役に立たなかつたり、必要なかつたりするものなどなく、多くの職業はつながっており、お互いを認め合うことで社会は成り立つものである。幸せなことに皆さんは、無限にある職業を選択できる年頃なのですよ。」と話しておられました。

無限の可能性を秘めている皆さん、新年を引き続き「互いを認め、個性と良識を磨き合う学校」とするよう、「一年の計は元旦にあり」を実践して、まずは「年度のまとめ」かつ「新年度の準備」のためである3学期を充実させましょう。

特に3年生には、特別な冬休みに「進路決定に向けて精一杯の努力を！」とエールを送ります。

<「秋霜」と「寒風」に耐えた蕾は、春には見事な花を咲かせます。>